

## <巻頭言>



### 会長就任の御挨拶

坂 本 忠 彦\*

平成22年5月18日の社団法人日本大ダム会議第48回通常総会において、私は同会議の第11代会長に選任されました。昭和6年に創立3年目の国際大ダム会議（ICOLD）に同会議日本国内委員会として加盟したという伝統ある会議の会長就任であり、大変名誉かつ光栄なことと考えております。しかし、2012年に京都で開催を予定しています国際大ダム会議第80回年次例会および第24回大会（ICOLD2012京都大会）および最近のダムをめぐる厳しい情勢を考えると改めて身の引き締まる思いが致しております。

ICOLD2012京都大会につきましては昨年5月のブラジル・ブラジリアでのICOLD第77回年次例会および第23回大会でエジプトとの競争の結果、京都へ招致が決定しました。日本国内においては、ダムの開発可能地点は少なくなりつつあり、ダム建設に関する社会環境は厳しいものがあります。しかし世界的に見れば現在は「水の世紀」と呼ばれ世界の人口は今後も増加の傾向を続け、将来食糧確保、生活のための清潔な水の確保、生産・エネルギーのための水、生活圏の安全確保のための治水対策が重要な課題となっています。又、地球温暖化による気候変動が確実視され、異常渇水、異常降雨の頻発化が予想され温室効果ガスの排出が少ない水力発電の開発が急務となっています。このような中、洪水を防ぎ、渇水期に補給し、水力発電を行うダムの建設・管理の重要性が再認識され、国際大ダム会議への期待は大きくなりつつあります。

戦前・戦後の日本のダム技術は国際大ダム会議の基準に従ったものでしたが、近年日本は新たなダム建設工法であるRCD工法やダム堆砂防止のためのサンドバイパス工法に見られるような先進的な技術を開発するなど、ダムの建設・管理・環境保全対策について世界をリードする立場に立ちつつあります。

こうした中で年次例会に加え、3年に一度あらかじめテーマを設定し、集中的に討議を行う大会を京都において開催し、最近の技術、知識を共有する場を提供することは日本にとっても国際的に貢献する機会を増大することでもあり、世界の水問題をリードする国としても名誉でもあると考えます。

\* (社)日本大ダム会議会長

(財)日本建設情報総合センター評議員、(独)土木研究所理事長)

去る5月23日から26日にわたりベトナム・ハノイで開催されたICOLD第78回年次例会で日本の提案したICOLD2012京都大会の運営計画が基本的に了承されました。既に国際大ダム会議第80回年次例会および第24回大会組織委員会（委員長 吉越 洋 前日本大ダム会議会長）が組織され、実行委員会および分科会が諸般の検討を行っております。組織委員長は既に、“Compact and Fruitful ICOLD 2012 with Warm Hospitality”「簡素で実り多き ICOLD2012大会をあたたかい心で」と指示を出されております。私は実行委員会委員長として、関係官庁、会員各位、学術団体、関連業界等の多くの皆様の御協力を頂きながら京都大会が成功するよう全力を尽くす決意でございます。厳しい経済情勢を踏まえると関係者の献身的な奉仕活動に頼る部分が多くなるかと思えます。しかしこうした努力は“Warm Hospitality”として必ず国際的に、また国内的にも評価されるに至ると考えております。関係者の御支援、御協力を御願ひする次第であります。

次はダムをめぐる厳しい情勢に対処する必要があります。昨年の鳩山内閣が発足後、前原国土交通大臣は川辺川ダムおよび八ッ場ダムの建設中止を明言され「今後の治水対策のあり方に関する有識者会議」によりできるだけダムに頼らない治水・利水計画による河川行政を行うこととされておられます。しかし私共はダムに頼らなければならない治水・利水計画が世界のみならず日本においてもかなりあること、ダムの有効性は過去の歴史が証明していると考えています。今後ともダムの効果および効率性について十分に資料を提供し、国民の皆様への広報活動を続けていきたいと考えています。

また平成20年12月1日に公益関係3法が施行され、当会議は平成25年11月30日までの間に、公益社団法人又は一般社団法人への移行の認可申請を行う必要があります。このため企画委員会内に公益法人対応検討分科会を設置し検討を行うこととしております。今後基本方針を検討し移行に伴う準備事項を明かにし、かつ措置する必要がありますので、最善の努力を致したいと考えております。

私は、前会長からの方針を継承し、これらの課題に取り組んで参る所存ではありますが何分力不足でありますので、会務の具体的な運営にあたっては執行部、事務局幹部の皆様と協議・調整を密にしながら、遺漏の無いことを期したいと考えております。

会員各位および関係者の皆様には何卒よろしく御指導と御協力を御願ひ申し上げます。